

第39回 国土地理院報告会

安全な社会・住みやすい地球のための
地理空間情報の役割

日時 2010年6月2日(水) 10:00(開場9:30)～

場所 新宿明治安田生命ホール

東京都新宿区西新宿1-9-1 明治安田生命新宿ビルB1F

参加費
無料

事前申込
不要

特別講演 「国土資源の保全と日本文明の未来」

国際日本文化研究センター教授 安田 喜憲 氏

招待講演 「被災地の災害対応を支援するための位置情報の活用」

京大大学生存基盤科学研究ユニット特任助教 浦川 豪 氏

プログラム

10:00～ 開会の挨拶 国土地理院長

10:05～ 第Ⅰ部 特別企画
地理空間情報の災害対応への活用

1. 高度な画像処理による減災を目指した国土の監視技術の開発
2. 測量用航空機「くにかぜⅢ」の概要と役割
3. 航空レーザデータによる地形変位の抽出
—平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震—

11:15～ 招待講演

京大大学生存基盤科学研究ユニット
特任助教 浦川 豪 氏

13:00～ 第Ⅱ部 特別講演

国際日本文化研究センター 教授 安田 喜憲 氏

14:00～ 第Ⅲ部 国土地理院施策報告

1. 地球地図の利活用と第2版整備に向けた取組
2. 国土地理院の主な地理空間情報関連施策
3. 測量成果等における個人情報保護・知的財産権等の取扱いについて
4. 地理空間情報活用のための新たな位置情報基盤
5. 準天頂衛星「みちびき」による高精度測位補正技術
6. GEONETにおける高さ情報の高精度化に向けて

16:20～ 閉会の挨拶 国土地理院 参事官

新宿駅から新宿明治安田生命ホールへのご案内



同時開催

「くらしと測量・地図」展
～地図が語る災害と復興の歴史～

6月2日～4日 10:00～19:00(4日は18:00まで)
新宿駅西口広場 イベントコーナーにて

【問い合わせ先】 国土交通省 国土地理院 企画部 企画調整課

TEL: 029-864-4584 FAX: 029-864-1658 E-mail: kenkyu@gsi.go.jp

URL: <http://www.gsi.go.jp/REPORT/HAPPY/OU/main39.html>



第39回 国土地理院報告会

～安全な社会・住みやすい地球のための地理空間情報の役割～

第II部 特別講演「国土資源の保全と日本文明の未来」

【13:00～14:00】

安田 喜憲

国際日本文化研究センター
教授

あなたは日本列島の風土と歴史の産物である。あなたや、あなたの家族が、この美しい日本列島の産物であることに気づいていただければ、本講演は成功である。

日本人の生命の連鎖を育んだ日本列島の風土と歴史を軽視してはならない。過去から現在を見通し未来を予測するという歴史科学の鉄則さえ無視した構造改革や、未来予測のシミュレーションは、絵に描いた餅に等しい。

過去の風土と歴史を精緻に年単位で復元できるものが「年縞」である。本講演ではこの「年縞」による高精度の風土と歴史の復元の実例をご報告し、日本人が、そして日本の文明が日本列島の国土の資源の産物であるかを理解を深めていただき、日本人が生き残るためには国土資源の保全がいかに重要であるかを述べたい。

国土資源の保全こそが、日本人が生き残るための生命線であり、日本文明未来のキーワードであることについて報告し、国土地理院が果たすべき使命を喚起したい。

第I部 招待講演「被災地の災害対応を支援するための位置情報の活用」

【11:15～12:00】

浦川 豪

京大生基盤科学研究所
特任助教

平成19年7月16日に発生した「平成19年新潟県中越沖地震」後、新潟県知事の要請を受け新潟県災害対策本部地図作成班（EMC：Emergency Mapping Center）を産官学民で結成した。発災後から約一ヶ月間、時々刻々変化する被災地の状況をデジタル地図とGIS（地理情報システム）を活用し、上水道の復旧状況等被災地の様々な最新の状況を可視化し、災害対応における実務者間の状況認識を統一することを支援した。この被災現場の活動で作成された主題図は139種類におよび、災害発生後時々刻々変化する被災地の状況を地図と統計値で表現し、被災地のその時点の主要課題を解決することを支援する貴重な情報となった。

【10:00～】 開会の挨拶 国土地理院長 小牧 和雄

第I部 特別企画 「地理空間情報の災害対応への活用」

【10:05～】

高度な画像処理による減災を目指した

国土の監視技術の開発

測図技術開発室長 大野 裕幸

平成19年度から平成21年度まで実施した国土交通省総合技術開発プロジェクト「高度な画像処理による減災を目指した国土の監視技術の開発（減災総プロ）」の技術開発成果のうち、大規模地震が発生した際にリモートセンシングによって人命救助の目安である72時間以内に広域の建物倒壊の状況などを把握して伝達する技術や、揺れが大きくなりやすい盛土箇所等の把握手法とその危険性評価システムの開発などについて報告する。

【10:35～】

測量用航空機「くにかぜⅢ」の概要と役割

画像調査課長 林 孝

国土地理院は昭和35年の「くにかぜ」就航以来、50年間に渡り空中写真撮影事業を実施してきた。この度、平成21年度末をもって「くにかぜⅡ」が退役となったことを受け、平成22年度より測量用航空機「くにかぜⅢ」が就航する。本発表においては、画像情報整備に係る事業の概要とこれまでの航空機による測量事業の実績を報告すると共に、今般就航した「くにかぜⅢ」についてその概要と役割を紹介する。

【10:55～】

航空レーザデータによる地形変位の抽出

—平成20年（2008年）岩手・宮城内陸地震—

防災地理課長 鈴木 義宣

平成20年6月14日に発生した平成20年（2008年）岩手・宮城内陸地震は、地すべり、土石流、河道閉塞などにより甚大な被害が生じた。この地震による被災地の復旧・復興に寄与するため、被災地域の詳細な航空レーザ計測を実施し、地震前後のDEMの差分図から地形変化を把握することができた。ここでは、被災地域の地形変位及び活断層の位置・形状を記載した、1:25,000詳細活断層図とデジタル標高地形図の概要を報告する。

【12:00～13:00】 — 昼休み —

第III部 国土地理院施策報告

【14:00～】

地球地図の利活用と第2版整備に向けた取組

環境地理情報企画官 中村 孝之

地球地図プロジェクトは、地球温暖化等地球規模の課題に適切に対処するための基盤的な地理空間情報である地球地図を世界各国・地域の国家地図作成機関が協働して整備するものである。平成20年には地球地図第1版として全球陸域の土地被覆及び樹木被覆率データを公開した。本報告では、地球地図の気候変動対策等への利活用及び第2版整備のための仕様の改訂について報告する。

【14:20～】

国土地理院の主な地理空間情報関連施策

研究企画官 下山 泰志

国土地理院では、平成19年度から基盤地図情報の整備を進めている。効率的な整備を進めるため、平成21年6月に基盤地図情報のグランドデザインを定め、現在それに基づいて地方における連携体制の構築を進めている。また本年9月には、G空間EXPOIにおいて、基盤地図情報フォーラムの開催準備を進めている。本プログラムでは、これらを含め、主な地理空間情報関連施策を紹介する。

【14:50～】

測量成果等における個人情報保護・

知的財産権等の取扱いについて

地理空間情報企画室長 田中 宏明

国や地方公共団体等が保有する地理空間情報には、社会一般にとっても有用な情報が多く含まれている。現状では、個人情報保護や知的財産権等の取扱いが明確になっていないこと等から、提供にあたり過度に躊躇することが地理空間情報の提供・流通の妨げになっている。地理空間情報のうち、特に地図・空中写真等の個人情報保護、知的財産権等の取扱いについて、国土地理院が現在実施している調査検討内容の状況を報告する。

【15:15～】

地理空間情報活用のための新たな位置情報基盤

測地技術調整官 高橋 保博

国土地理院は、いつでも、どこでも、誰でも必要な精度の位置情報が容易に利用できる社会の実現に向けて、新しい位置情報基盤の検討を行った。その中で提案された屋内外シームレス測位や自律移動支援への活用が期待される「位置情報点」及び「場所情報コード」について報告する。

【15:40～】

準天頂衛星「みちびき」による高精度測位補正技術

地震調査官 矢来 博司

準天頂衛星「みちびき」が平成22年夏に打ち上げられる予定である。この準天頂衛星は、GPS互換信号を送信し、天頂付近に配置されることで衛星の幾何学的配置を改善する（GPS補完）、およびGPSの補正情報を配信し、測位精度を向上させる（GPS補強）という機能を持つ。本報告では、国土地理院がGPS補強として開発を進めている測量向けの高精度測位補正技術について紹介する。

【16:00～】

GEONETにおける高さ情報の高精度化に向けて

宇宙測地研究室主任研究官 宗包 浩志

平成21年4月よりGEONETの解析戦略が改訂され電子基準点位置時系列の精度が向上したが、高さ情報については原因不明の年周変動が含まれ更なる改善の余地がある。高さ情報に含まれる大気や海洋などによる誤差について分析を行い、高度な補正を適用することでほとんどの点で高さの年周変動が小さくなった。なお年周変動が見られる点では、雪の重みによる地盤の上下変動など既知のメカニズムによる変動が明瞭化された。

【16:20～】 閉会の挨拶 国土地理院 参事官 吉兼 秀典